



せと 歴史と文化財を知る見学会 水南のマメナシ界限

主催：瀬戸市・（公財）瀬戸市文化振興財団

協力：せとマメナシ観察会

（資料中の※写真は、せとマメナシ観察会提供）

日時：令和7年3月30日（日）午前9時00分～

スケジュール：午前 9時00分 水南小学校駐車場集合・開会あいさつ・「末広」のマメナシを遠望

（予定時間） 9時30分 天然記念物指定木 解説

10時00分 県有林のマメナシ見学

10時40分 水南中窯跡出土遺物見学・東松山公園植樹マメナシ見学

11時30分 閉会・解散

1 これまでのマメナシ保護活動 （瀬戸市の樹勢回復作業を中心に）

平成14年6月 せとマメナシ観察会発足

平成16年2月 水南小学校内の1本のマメナシが、瀬戸市指定天然記念物となる。

平成24年10月 愛知県尾張農林水産事務所による「ふるさと樹木診断」で水南小のマメナシを樹木診断

平成26・27年 せとマメナシ観察会が指定木の樹勢の衰えを危惧し、27年秋に文化課と協議

平成28年3月 水南小学校で指定木南東のモミジバフウを強剪定

8月 市文化課が指定木南東のモミジバフウをさらに強剪定

平成29年2月 指定木根を南東にも伸ばすため、市文化課が水南小と協議し、通学路を南側へ2m迂回させる。
同時に森林公園からの移植マメナシを将来移植するため根回しを実施。

3月 土壌が硬くなっている部分を中心に土壌改良を市民参加で行う（～30年1月計4回）。

令和元年5月 3月に採取した「東の木」の穂木を他の台木に切り継ぎ（→失敗）。

9月 「東の木」の穂木を指定木隣の森林公園台木に接ぎ木（→7本成功）。

令和2年1月 水南小学校南東隣接道路交差点の改良工事に伴い、「東の木」が伐採される。

あいち・なごや生物多様性エキスポ（於：名古屋国際会議場）にパネル出展

4月 「東の木」伐採後の造成表土を指定木西斜面に再置した部分から若葉・幼樹が発見される。

「小学校東県有林の木」が県有林事務所により伐採されるも、ヒコバエがみられたため、その成長を見守るとともに、近隣に新規発見の7本目のマメナシを発見。

「東の木」穂木を再び森林公園台木に接ぎ木。

令和3年12月 指定木でのサルノコシカケとみられるキノコ発見。専門家に指導を仰ぎながら、キノコの出た幹を徐々に切除する方向で樹勢を衰えさせずに対応する方針へ。万が一のために、指定木の穂木を接ぎ木（芽接ぎ）する作業を行う（令和4年9月、令和5年9月、令和6年3月、令和7年3月実施）。

令和5年1月 指定木の腐朽枝の約半分以上を切除（令和6年12月にも実施）。

令和7年1月 指定木の根が春に根を伸ばしやすいように、会は土壌の掘り起こし作業を水南小学校4年生と共に実施。

2 水南小学校周辺地区の変遷

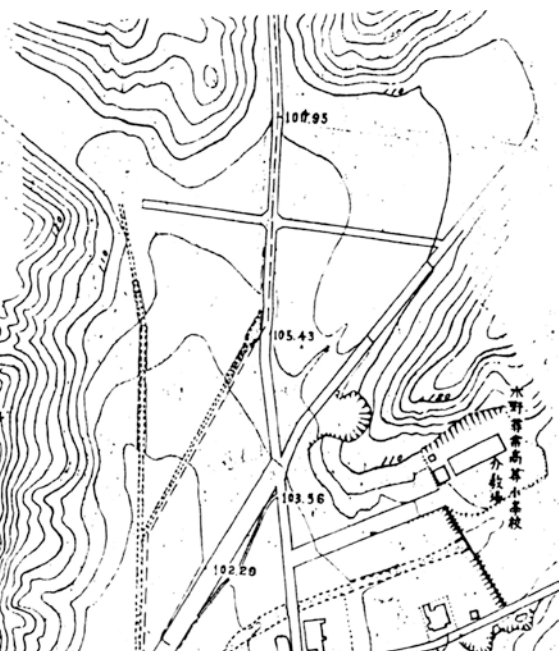


現在の水南小学校周辺の孫田川上流域は、江戸時代の村絵図では、中水野村の南端の「御林」の一部で、人家もまばらな山林でした。南側近くの信州飯田街道附近の人家は、明治 38(1905) 年の瀬戸電気鉄道の横山駅（現新瀬戸駅）開業など、近代に孫田川下・中流域に広がっていきます。しかし、昭和 4 年に水野尋常高等小学校分教場を現在の小学校敷地に開設した時には、まだその周辺には住宅等は少なかったようです。昭和 20 年まで順調にこの地区の人口は増加し、戦後の横ばい期を経て、昭和 40 年代から再び増加を始めます。水南小学校の東側谷の奥部に宅地開発が及び始めたのは、昭和 40 年代からのようです。

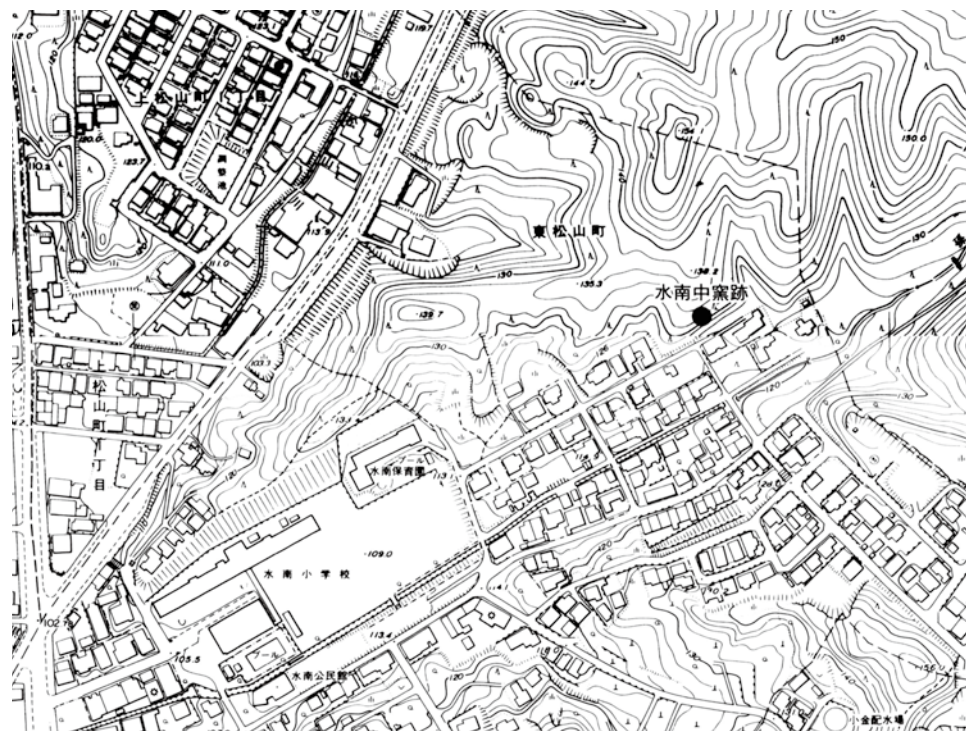


参考：瀬戸市立水南小学校 1985
『我が母校 すいなん 50 周年記念誌』

上：中水野村絵図（南半）下：今村絵図（北半）
（ともに寛政 4(1792) 年作成）
（徳川黎明会蔵（『瀬戸市史 資料編一 村絵図』より））



水野尋常高等小学校分教場
周辺地形図
（昭和 4(1929) 年頃）

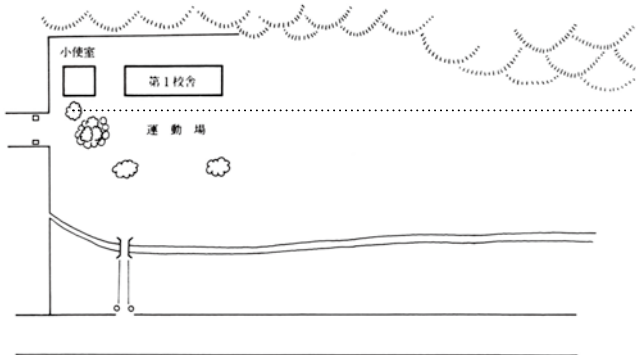


水南小学校周辺地形図（平成 5(1993) 年頃）

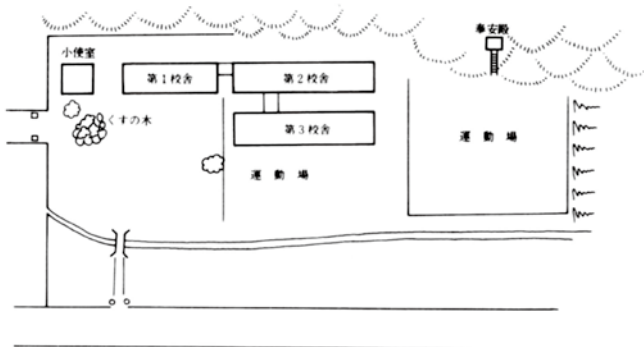
3「名木」の宝庫である水南小学校

昭和2(1927)年度末に水野村名南部の小学生の瀬戸町への越境入学が禁じられたことに端を発する、昭和4年の小学校分教場設置(昭和11年から水野第一尋常小学校設立)から今日に至るまで長い歴史を持つ水南小学校ですが、校内には数多くの大木・名木や希少植物が育まれ、児童の成長を見守ってきました。

①(昭和4(1929)年頃)水野尋常高等小学校分教場開設時



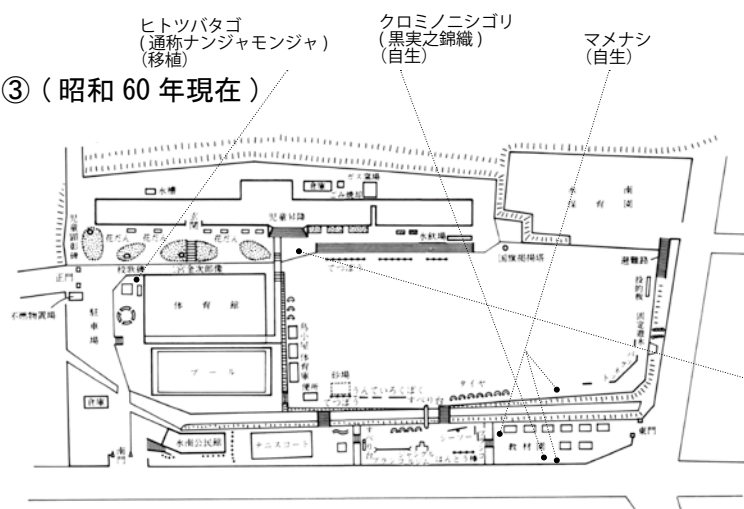
②(昭和16(1941)年頃)第3校舎増築時



クスノキ(瀬戸の名木No.48)

上:現在(2007.04.21)※ 下:昭和11年当時※※
上:樹高16m 幹周3.07m 下:樹高1.5m 幹周0.3~0.4m
昭和4(1925)に移植

③(昭和60年現在)



水南小学校敷地変遷図

変遷図・※※画像は(水南小学校1985)より



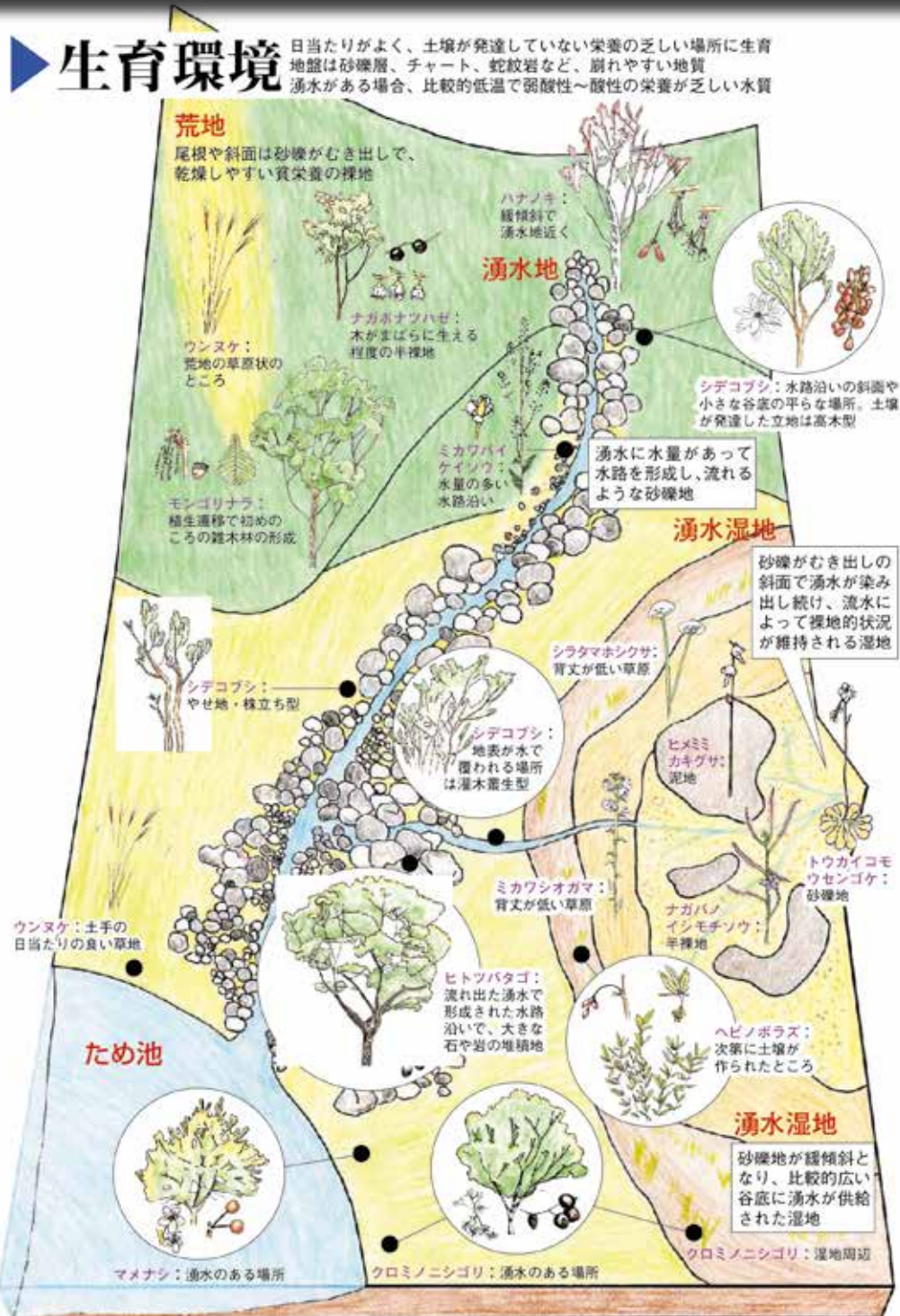
トチノキ(瀬戸の名木No.77)

上:現在(2007.04.21)※ 下:昭和11年当時※※
樹高16m 幹周3.07m
昭和48(1973)年に移植

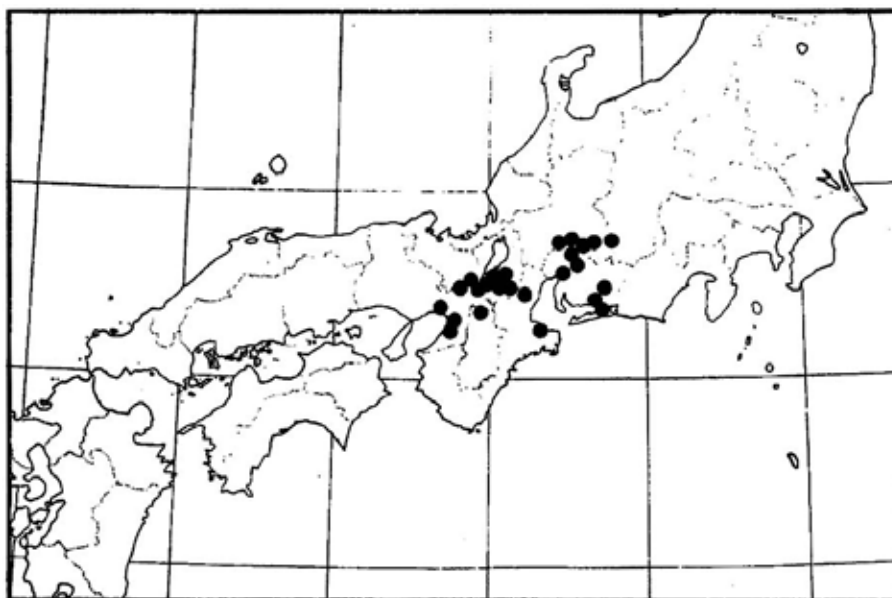
4 東海丘陵要素植物

「東海丘陵要素植物」は、世界中でも日本の愛知県・岐阜県・三重県など伊勢湾周辺の東海地方に特徴的に生息する植物群で、他の地方ではもともと分布していなかったり絶滅してしまったなどの理由で、今日この地方を中心として遺存しているもの。東海丘陵要素植物の生息地の主な地質は、河川、扇状地、湖沼など様々な環境で堆積した砂礫層を中心とした堆積物です。生息環境は、下図のように日当たりがよく、貧栄養な土地に特徴的にみられます。

そんな東海丘陵要素植物も、近年の環境変化によりマメナシをはじめとする絶滅危惧種も多く存在し、生物多様性が求められる中、それらの生息環境の保全が模索されています。



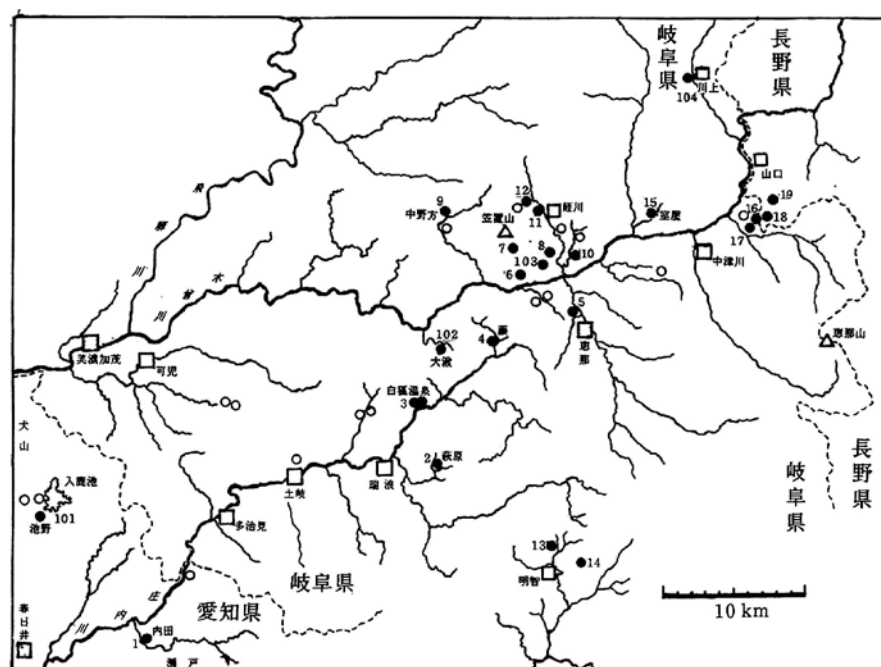
企画制作：(財)日本野鳥の会 文：吉鶴靖則 イラスト：川田奈穂子



クロミノニシゴリ分布図 ((長益 1992) より)



南側教材園の
クロミノニシゴリ※
(2008. 6. 13 撮影)



ヒトツバタゴ分布図 ((太田・石岡 1990) より)



体育館北西の
ヒトツバタゴ (移植) ※
(2015. 5. 12 撮影)



フモトミズナラの葉と種実※
(2005. 10. 5 撮影)

参考・引用

：石岡孝吉 1990「ヒトツバタゴ自生地の地質学的概査ならびに
自生地がごく限定されることと地質との対応について」

『椋山女学園大学研究論集第 21 号第 1 部』
植田邦彦 1989「東海丘陵要素の植物地理 I . 定義」『植物分類・
地理 Vol.40 No.5』植物分類地理学会

豊田市自然観察の森 2007『東海丘陵要素植物群 ～郷土の宝の
植物たち～』

長益英敏 1992「クロミノニシゴリの分布」『植物分類・地理
Vol.43 No.2』植物分類地理学会

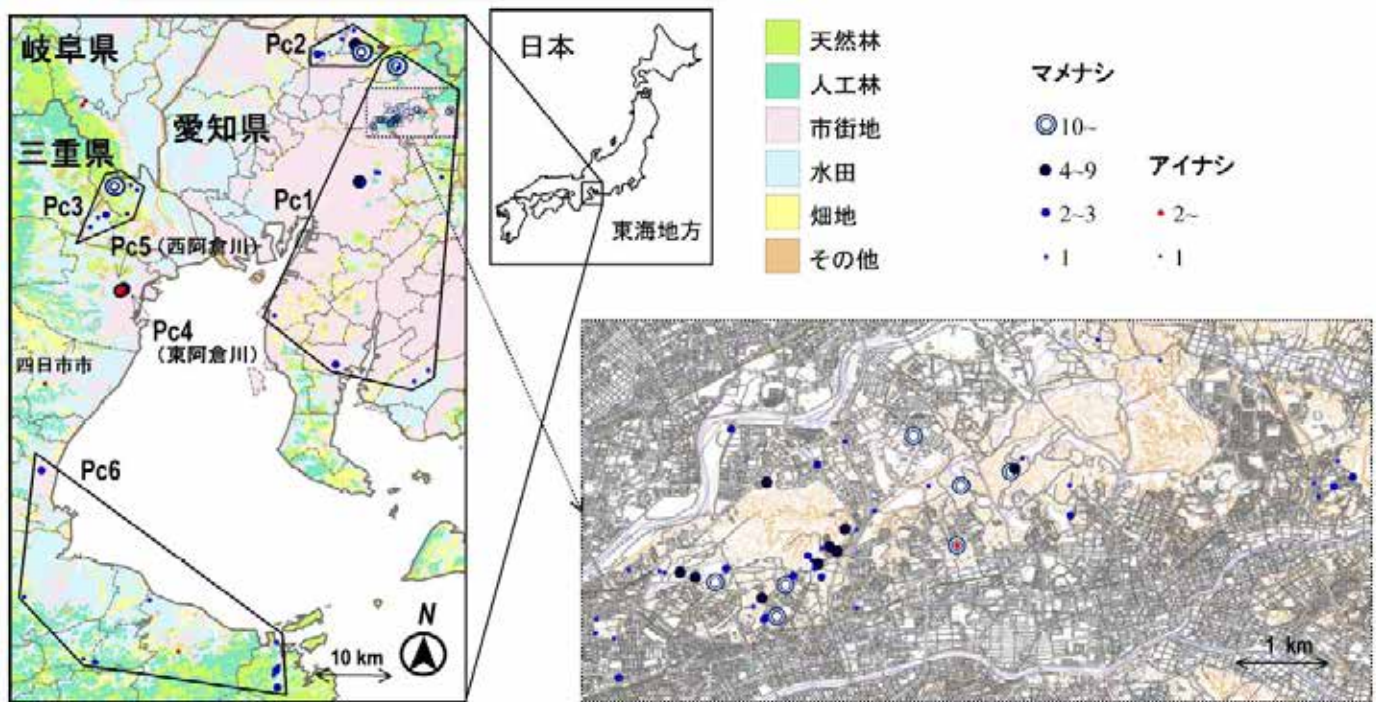
5 マメナシ【市指定天然記念物】

マメナシ（三重ではイヌナシと呼ばれる）は、更新世の最終氷期（7万年前のヴェルム氷期）からの遺存植物です。日本では、愛知県・三重県等の極めて狭い地域に分布が限られており、絶滅危惧種（愛知県のレッドデータブックではⅠA類）に選定されています。

サクラと同様、バラ科の落葉高木で、湿地や溜池などの湧き水のある場所に生息します。かつては東松山町から進陶町にかけて群落がみられたようですが、現在は市内には7本の自生木が確認されているのみです。



マメナシの種実・花・実生※※（撮影 今井淳）



マメナシ（およびアイナシ）の現存個体・個体群の分布状況※※
（Pc1～6は、葉緑体・核DNAの多解析の結果に基づいて区分した集団（岐阜大学応用生物科学部調査による））



多度（桑名市）のイヌナシ自生地※※
【国指定】（撮影 今井淳）



大草（小牧市太良上池）のマメナシ自生地
【県指定】（（愛史協 2011）より）

※※図版・画像は（加藤ほか 2014）より



マメナシ指定木※
(2008. 4. 6 撮影 東より)



マメナシ指定木※
(2023. 3. 22 撮影 東より)



マメナシ指定木の
樹木医診断 (2012. 10. 31)



「小学校東 県有林」のマメナシ
(2022. 3. 24 撮影)



「焼肉末広の木」のマメナシ
(2016. 4. 5 撮影)



「グラウンドの木」マメナシ
(2016. 4. 5 撮影)



「小学校東 県有林」のマメナシ
(2016. 4. 5 撮影)

参考：加藤珠理・今井 淳・西岡理絵・向井 譲 2014 「希少種マメナシの地理的遺伝構造の評価」『森林遺伝育種 第3巻』
愛知県史跡整備市町村協議会 2011 『愛知県 名勝・天然記念物 保護活用事例集』

せとマメナシ観察会の活動

～マメナシおじさん[※]とマメナシ学習～

※※せとマメナシ観察会
は男性会員が多いの
ですが女性会員も
います。活動
参加大歓迎です。

瀬戸市立水南小学校の校庭は、かつて孫田川谷筋の湧水湿地の一つでした。このため、校庭や周囲にはマメナシやクロミノニシゴリ等がみられ、それらの貴重な植物を観察・保全するため 2002 年に「せとマメナシ観察会」が水南公民館・小学校関係者、地域住民を中心に発足しました。発足以来、水南小学校と密接に関わり「未来創造事業 マメナシ学習」として 1～6 年生すべての学年に対し、自然・マメナシ・植物生態についての関心や知識・意識を高める活動を行っています。



1 年生 (入学記念植樹 2019.5.13)



2 年生 (「ぼくの木、わたしの木」発表 2019.11.25)



3 年生 (「タネのふしぎ」学習 2019.10.15)



4 年生 (マメナシの実からのタネ採取・発芽体験 2019.1.10)



6 年生 (「CO2 と環境」学習でマメナシの高さを測る 2019.11.20)

(上記画像は、水南小学校ホームページより転載)

5 年生 (マメナシの鉢植え替え 2019.6.7)

すいなんなか 6 鎌倉時代の窯跡「水南中窯跡」

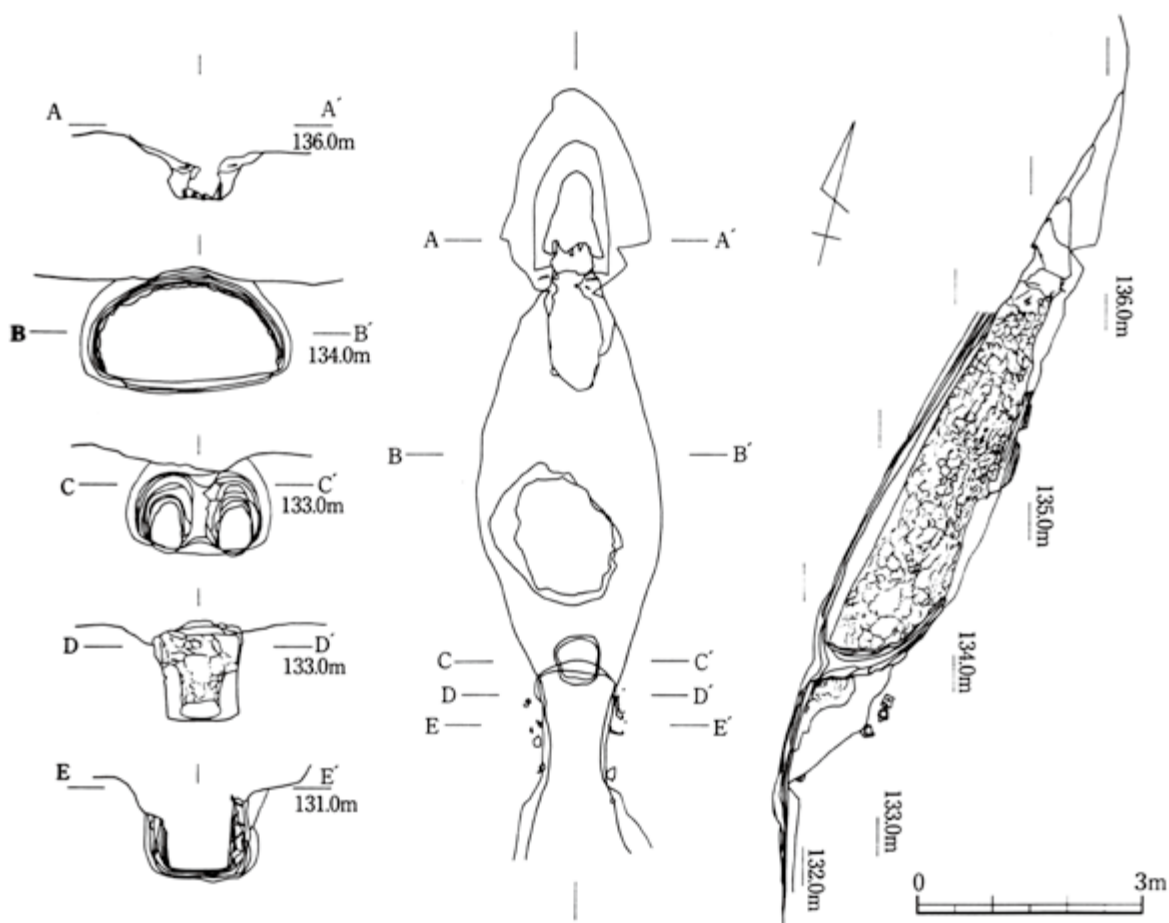


水南中窯跡 窯体全景

水南小学校周辺には、鎌倉時代(13世紀)の窯跡が2基(水南小前窯跡・水南中窯跡)存在していました。現在は開発行為に伴い2基とも発掘調査後滅失しています。

水南中窯跡では、日用雑器の山茶碗・小皿や片口鉢、灰釉を施した四耳壺・水注・卸皿などの古瀬戸を焼いていました。近隣で粘土や燃料等を調達し、工房でロクロ成形した後、1ヶ所の窖窯で製品を焼成しました。

中世瀬戸窯の窯場は、工人が燃料等を求めて移動していきます。菱野・端山丘陵に始まった古瀬戸生産の窯場は、水野丘陵などに拡散する中で30～80年この地で操業し、その後馬ヶ城や品野・赤津地区に移動していったものと考えられます。



水南中窯跡 窯体実測図



古瀬戸焼成窯分布図（（藤澤 2005）より）赤枠はP10 の今回見学地範囲

